付１６話　米国での留学生活 No.1

今回も、アメリカでの留学生活についてお話しする。あまり興味ないかもしれないが、昔の留学生の生活が理解でき、少しは面白いと思う。

セントルイス空港に到着後、迎えの学生とホテルに向かう。ホテルは大学の傍にあり、名前は忘れた。8 階ほどの古いホテルで、どうやら長期滞在型らしい。チェックインを済ませ、部屋に行くと、そこは 1 ルームマンションに似てリビングとバス・トイレ、キッチンが付いている。しかも部屋代はかなり安く、留学中ここに滞在すると決めた。大型冷蔵庫や洗濯機など、設備は古いがリビングは広くて快適、ただテレビはなんと白黒、フロントに電話して部屋を変えてもらう。翌朝、迎えに来た学生と車で大学に行く。女性秘書に会うと、Gould 先生は 1 週間ほど留守と告げられた。院生室に案内され、ここがあなたの研究室であるという。机と本箱が入る程度の広さを胸位置ほどの壁で多数区切り、個人の研究室とする。そのひとつが私の研究室。留学生活が始まることになる。

セントルイスは、アメリカミズリー州の州都、人口 35 万人規模の中都市である。ミシシッピ川とミズーリ川の合流点にあり、商工業都市、MLB セントルイス・カージナルスの本拠地でもある。同市は全米の大都市圏で最も物価が安く、生活し易い都市である。域内にある教育機関は多くの留学生を受け入れており、また日本人居住者も多い。ダウンタウンから東に約 6Km の位置に大きな公園、フォレストパークがある。フォレストパークは万博跡地に作られた実に広い公園で、東西 3.5km、南北 2km の長方形の広大な敷地を要す。良く管理された木々や芝生、点在する湖の美しさは実に素晴らしく、しかも公園内には動物園、博物館、美術館、ゴルフ場があり、ほとんどの施設が無料である。

公園の西脇にワシントン大学があり、東の脇には同大学の医学部がある。この間をスクールバスが定期的に走っている。無論無料。宿泊先のホテルは医学部のすぐ近くにあり、大学へはこのスクールバスを利用する。若者が運転するこのスクールバスは面白い。ほとんど毎日利用するが、決まった経路がない、と思う。時に、公園内をぐるぐる回る。乗客は怒るでもなく、窓の外を楽しむ。頼めばどこでもバスを止め、道端で手を挙げれば乗せてもくれる。おおらかでアメリカ的、日本ではとても考えられない。自由で開放的、実に楽しい。

ホテルの近くに大きなスーパーがある。学校帰りに、その前でよくバスを止めてもらった。料理をしないので、買い物はほとんど果物と飲料

水。ブドウは涙形、房は巨大で食べきれない。朝食は面倒なので、このブドウで済ますことが多い。オレンジはその場でジュースに、大瓶に何個もつぶして入れてくれる。それでも実に安い。

部屋のキッチンには、大型の冷蔵庫があるが、中身はいつもブドウとオレンジジュース、ミネラルウォータのみ。食事はホテルの 1 階にあるレストランで済ます。レストランといっても日本の定食屋である。何時も行くので気遣ってくれ、時々、おばさんから差し入れがある。ただ、量が多いのと味が合わない。ヌードルを食べたが、量も味もまあまあ、帰ろうとしたとき呼び止められ、ヌードルは前菜、これからがメインディッシュだという。愕然とする。時々、近くのレストランにも行く。ここでも、一つのメニューを注文すると大量に出てくるが、大味で口に合わない。やはり、ファーストフードが良い。ハンバーガーとフライドチキン、ピザを良く食べる。万事がこんな調子である。アメリカ文化は大好きであるが、食べ物は断然日本が良い。

構内は広く、芝と木々の中に施設が点在する。多くの学生が大学生活を楽しんでいる。この大学では留学生を多く目にする。アジア人やインド人が目立つ。白人系は区別が付かないので留学生かどうか分からない。昼食はほとんどカフェテリア形式の食堂に行く。数多くの食事が用意されており、味も結構いける。驚いたのは、既にキャッシュレス化進み、学生 ID をかざすだけで支払い終了。学用品を買いに購買に行くと、ここでもキャッシュレス、学内ではほぼ現金を必要としない。近くの洗濯屋に行ったとき、財布の中の現金を見て、おばさんに危険だと叱られる。

教授に会わないので仕事が決まらない。時々昼食後、早々とホテルに帰り、セントルイスの観光に行く。ダウンタウンの真ん中にマーケット・ストリートという大通りがあり、公園群を散歩する。MLB のブッシュ・スタジアムも見学する。セントルイスの写真では必ず目にするサーリネン設計のゲートウェイ・アーチがある。西部開拓史の出発拠点であり、モニュメントとして巨大なアーチが地面からニョッキと突っ立っている。高さ約 190m、断面は正三角形、3 面の側壁は RC 造で、高さ 91m までではステンレス鋼、それより上は炭素鋼の板で覆われている。内部は中空になっており、頂上の展望台へはトラムで昇る。このアーチはミシシッピ川の傍にあり、地下にトラムの乗降口がある。展望台からのぞくと、どこまでも平らな平原が続く。すぐ下には、ミシシッピ川が流れ、外輪船が動いている。ジャズやブルースが聞こえてくるような感覚になる。まるで、トムソーヤの世界である。そこには、ロサンゼルスとは異なり、古き良き時代のアメリカがある。